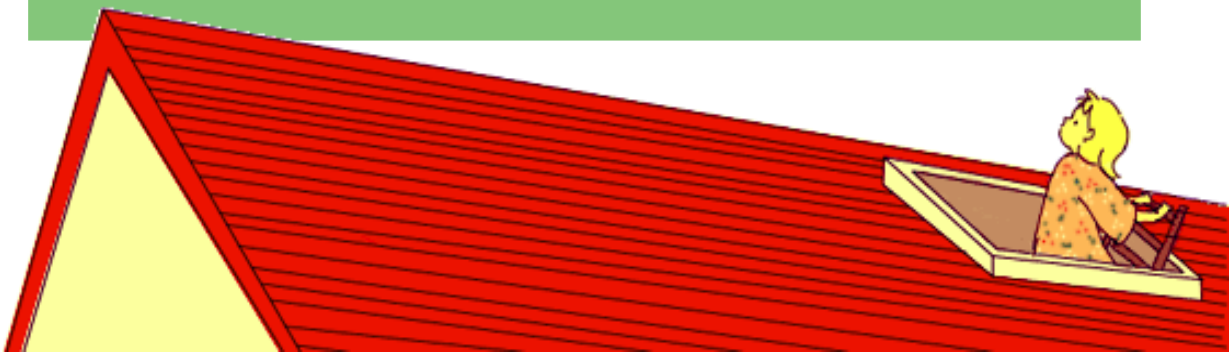
いーえす
ESの樹

私たちは聴くことを大切にします。
ＥＳの文字を左右対称に合わせることにより
対等な関係で耳を傾け心のささやきにも寄り添い
聴くことを表現しています。

No. 36　2020 年 10 月　発行

も　く　じ

P.2　NPO 法人えんぱわめんと堺　第 18 回総会
P.3　CAP プロジェクト
P.4～5　オレンジりぼん
P.6　エンパワメント・ファシリテーター研究会 vol.7
P.7　『自分を大切にできる子どもを育むために、性の健康教育も有効です』
P.8～9　就学前プログラムを受講して
P.10～12 コロナ禍におけるワークショップ
P.13　CAP 活動報告・ワークショップ開催募集
P.14～15 今だからこそみんなで考えよう講演会
P.16　事務局からのお知らせ



イラスト提供：ふわふわ。り

NPO 法人えんぱわめんと堺

第 18 回　総会ごあいさつ

代表理事　　北野　真由美

こんにちは。
特定非営利活動法人えんぱわめんと堺　第 18 回の総会を迎えることができ、ともに活動にご尽力いただいている皆さまにお礼を申し上げます。

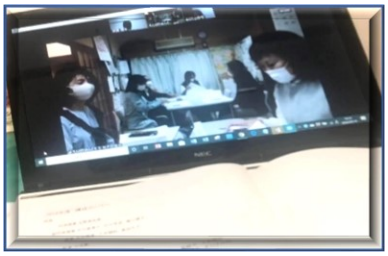
今年に入って、新型コロナウイルス感染拡大防止による緊急事態宣言発令による私たちの気持ちや思いは、複雑にも左右している状態です。病気そのものの感染も恐ろしいですが、
この複雑な気持ちの中にある一人ひとりの不安、おそれの蓄積が、さらに差別や暴力を拡散させていくことも危惧されることです。

今こそ、安心して自信をもって自由な気持ちを取り戻す発信を続けたいと考えています。

簡単ではありますが、“今だからこそ”の気持ちを今年度のスタートラインと意識し、えんぱわめんと堺の総会あいさつに、かえさせていただきます。

2020 年 5 月 16 日

今年の総会は事務所の２階で、議長・議事録署名人・代表理事・監事・事務局と人数を制限しての開催となりました。事務所に来ない活動メンバーは Zoom での傍聴。



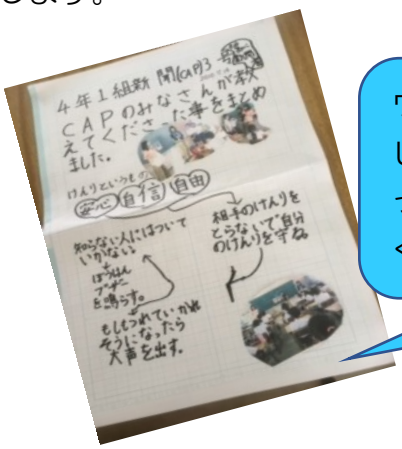
みんなで働いた１年間のずっしり重い事業報告も、感染予防のため読み上げは自粛しました。
総会後のイベントも今年は開催出来ませんでした。
例年とは違うスタートを切った ES は、新しい方法を模索しながら、メンバー一人ひとりが“**今だからこそ**”を心に留めた総会となりました。

CAP プロジェクト

～コロナ禍の中でのＣＡＰ～

コロナウイルス感染拡大によって、緊急事態宣言が、発令され動きが止まってしまったときは、子どもたちに CAP を届けることが、できるのか不安と何もできない無力感で押し潰されそうでした。やっと緊急事態宣言が、解除され、子どもたちに CAP を届けることができることを聞いた時は安堵とコロナウイルス感染をしない、させない緊張感を感じました。
まず、マスクをした状態でのロールプレイはどのような支障があるか、メンバーで確認しました。マスクをしていると劇のとき誰が話しているかわかりづらい、話している人の表情がわからない等、実際に練習をして気づくことができました。ファシリテーターは透明マスクを着用。また、失敗版の劇は透明マスク着用で誰が話してるのか、わかるようにする。子どもと話すときは距離に気をつけてマスクをする、特別な叫び声は壁の方を向いてする等を確認しました。先生方との打ち合わせは、より丁寧にするよう心がけています。名札のシールは先生から貼って頂くか、手渡しにするか、リーフレット、アンケートは、先生に配って頂くか、私たちが、配るか、手渡しにするか、特別な叫び声の練習はどうするか、マスクをつけていることを確認して、前を向いて一度だけ声を出して練習するか、声の出し方のコツだけを伝えるか、成功版の劇での特別な叫び声は子どもたちにも出してもらうか、声を出さないでかけつけてもらうか、などひとつひとつ確認しながら、打ち合わせをしています。先生も子どもたちも安心した環境の中で CAP ワークショップができるよう学校の要望に沿った形で実施しています。マスクをしていることで子どもたちの声が聞こえにくいと感じることもありますが、子どもたちの表情の変化やつぶやきに耳を傾け、今まで以上に神経を集中させて携わっています。
子どもたちが、どのような状況であっても、全ての子どもたちに安心、自信、自由のけんりがあることを知ってもらい、けんりがなくなったと感じるときは話を聴いてくれる人と出会うまで諦めないではなし続けてほしい。必ず何かできることがある。けんりを取られていい子どもなんて一人もいない。みんな、たいせつな存在であることを伝えていきたいと思います。教育委員会をはじめ、学校の先生方のご理解とご協力で、CAP プログラムを子どもたちに届けられることに感謝します。

なえちゃん



ワークショップの後、子ども達がＣＡＰ新聞を作成してくれました。「今日ワークショップに出られなかった友だちにも教えてあげたい」と、言って見せてくれました。

オレンジりぼん

障がいのある子どもと、そのきょうだいへワークショップを届けています。
こころクラブ（市民団体）との関わりは、23 年目になります。
月に一度、日曜日の朝に行っています。

障がい児・者チーム

スタートは障がいがある子どもたちが、不安な気持ちを解消したり、暴力に遭わないためにと願って始まりました。その想いは今も同じですが、自分は大切な人、暴力をされたら身を守るんだ！と思ってもらえたら嬉しいです。
毎月、一緒に考え、楽しみながら「感情について」「暴力から身を守る練習」「カのコントロール」「アンガーマネジメント」様々なテーマで取り組みをしているこころクラブの時間はとても貴重です。
コロナの影響で 3 か月間ワークショップが開催出来ませんでしたが、今まで取り組んだことをしっかり覚えてくれています。

自分の好きなことをみんなに伝えたり楽しかったことを話したり、人と人とのつながりで学ぶことが多くあります

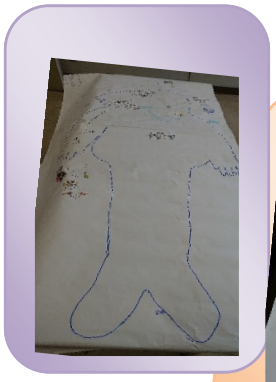
み～んなでつながろうオ～レンジりぼん～♬　ワークショップのしめくくりはこの歌をみんなで唄います

（たえぽん・しおちゃん）

きょうだいチーム

この場の主役は自分！

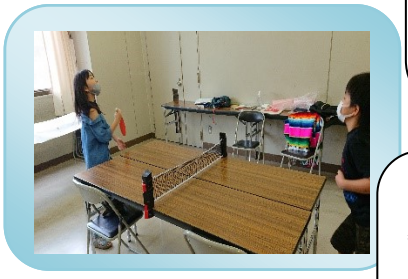
ありのままの自分が出せる場。何でも話せる場。発散できる場。
あなたは大切な存在！自分の気持ちをだしたり、自分の考え、意見を言ってもいい！そんな想いで障がいのある方のきょうだい支援をしています。
今年度のテーマは「たいせつなわたし」自分の中の肯定的な力をたくさんみつけています。



半年前、一人ひとりの実物大のシルエットを模造紙に描き写し、カラダの中にある力をたくさん見つけることを続けています。普段あたりまえにしていることも力！好きなこと、得意なこと、知っていることなど、肯定的な力をたくさん見つけています。自分を大切に思う気持ちにつながっていってほしいです。久しぶりにシルエットにカラダを合わせると、大きくなっていたね！！心の変化もあったかな・・・？

大好きなキャラクターの塗り絵中！
「〇滅の刃」「〇ケモン」
名前も全部知っています。スゴイ！！

インタビューに答えています！
Q 好きな遊びは？Q 好きな勉強は？Q 好きな食べ物は？Q これからやってみたいことは？Q わたしの夢は？Q 最近失敗したことは？Q その時、どうした？



ラストは卓球で、発散です！
毎回、独特のルールが出てきて・・・(^_^;)
ラリーも続くようになってきた～😄

これからも子どもの肯定的な力をたくさん見つけていきます！By　ありちゃん

エンパワメント・ファシリテーター研究会　ｖｏｌ．７
めざせ！エンパワメンター

子どももおとなも、さまざまな可能性、力を持っています。本来もっている力をふくらます、エンパワメントの関わりでファシリテートをしていく
“エンパワメンター”をめざすために、ともに学びましょう！

参加費（一回につき）一般：３０００円（学生：２０００円）
賛助会員：２０００円　正会員：１０００円

エンパワメンターの定義

人権意識を持って
エンパワメントの
関わりができる人

エンパワメンターって？

Empowerment（エンパワメント）・・
内なる力を取り戻す関わり（人権の視点）

Mentor（メンター）・・
助言者、支援者ビジネス基本用語

Facilitator（ファシリテーター）・・
促進者

エンパワメンター
（エンパワメント＋メンター
＋ファシリテーター）

どんな人？考案中

・聴く力・人を信じる・多様性を認める
・新しい価値を受け入れる
・開拓者である　・ユーモアがある
・対立をおそれない　・未知の扉を開く
・本来もっている力をふくらます
・共に見つける

①10/31（土）９：30～12：00
堺市総合福祉会館第３会議室
子どもに関わる人集まれ
～わたしと子ども～

②11/30（月）13：30～16：00
堺市総合福祉会館第３会議室
子どもとともにいる人集まれ
～あなたと子ども～

③1/30（土）９：30～12：00
Zoom 開催
なぜエンパワメンターなのか
～みんなと子ども～

④2/27（土）9：30～12：00
場所　堺市内
社会の中の子ども
～子どもと多様性～

⑤3/31（水）13：30～16：00
場所　堺市内
子どもの中の社会
～トラウマと子ども～

自分を大切にできる子どもを育むために、性の健康教育も有効です

自分のこころと身体を肯定的にとらえることは、思春期以降に自分のからだを自分で管理し、大切にすることに繋がり、自己肯定観を育みます。幼児期からの性の健康教育がその学びに役立ちます。ヨーロッパでは、性教育という特別な授業の枠は設定せず、生活の学びの中で、食事・睡眠・排泄・清潔《この４つが性の自立》にからめて、性の学びを年齢に応じて進めています。日本では、その辺りが保健の領域なのか？家庭で学ぶことになっているのか？（家庭は様々です）学校教育の中で十分な時間を取れていないと感じています。

乳児、幼児期の育ちが、思春期に出てくるとは、よく言われることです。思春期のしんどさの中で、例えば幼児期に愛着の課題があった子どもの中に、快・不快の感覚が育っておらず、失禁、排便の処理ができなくなったり、満腹や空腹が分からなかったり、不快な関わり（例えば暴力や不適切な性的かかわり）を不快と感じられない子ども達もいます。その子のせいではなく、快・不快を学んでいないのでその感覚が全く分からないのです。そうする中で、自分を大切に出来なくて、からだを壊したり、人との関係性がうまく取れなかったり、孤立したり。自己肯定感が育たず口癖が《私なんてどうでもいい》になってしまった子ども達に出会い、もう一度、丁寧に《性の自立》を学び直してもらう必要を感じています。

それと男の子は、もっと自分を大切にしていい。現在 2020 年では、性の多様性や、職場でのダイバーシティ、同性婚への肯定的な意識、ジェンダー役割への違和感など、一定の世界では広がってきているように見えます。しかし、今社会を作っているおとな世代は、そのような概念がほとんどない時代を生きてきた前の世代に育てられ、教育を受けてきました。今の子ども達もそう、育ってきた環境の中で影響を受けたおとなは「旧来の常識」をまとった人が多勢だったに違いないです。

保護者向けに、幼児期の性の健康教育を実施して、（参加者は、９割が女性）例えば性器の洗い方やおしっこの仕方も伝えます「ペニスをしっかり持って、少し包皮を上に引っ張って、尿道口を出して便器の中を狙ってします。飛び散るのもマシです～」と伝えると、参加者からは「男の子はトイレを汚すよね」「男子は汚いね」と出てきます。実は、女性だって、便器の裏に尿がり付いたり、汚したりすることはありますよね。しかし・・この『男の子は汚い、すぐ汚す』が心に積もるんです。

例えば小学校で、女子はプールサイドの更衣室で着替える。男子は教室で着替えて、上半身裸のままローカを通ってプールまでいく。それは話し合いも説明もなく、決まっていること。その経験が、なんで女子だけ？にならず、女は大切にしないといけないけど、男は雑に扱ってもＯＫ！と心に積もる。違和感ないですか？こんな経験を当たり前に積み重ねていくと、自分は大切と思えない。　思春期のからだの変化にも、自慰に対

する自己イメージにも、マイナス感覚を持つ人がいるんです。そうなると、自らの性への肯定感も育まれず、相手も大事に出来なくなる、ということだと思う。女性差別と同じ男子軽視も問題。
この辺り、来年 2 月 13 日の上野千鶴子さんの講座でもっと突っ込んだ話を聞きたいですね。
～これからの子ども達にはぜひ 2020 年世界のスタンダードで成長してほしい～

ＳＡＹ（性・生）の会　はしもと

CAP スペシャリスト就学前プログラム講座を受講して

～3日間の養成講座の学びからの再発見ダイアリー～

７月３日（１日目）

　いよいよ養成講座の１日目が始まった。今年は、えんぱわめんと堺からは２名のメンバーが参加した。
初日の今日一番印象に残った学びは「子どもの発達の理解」の体験だった。ワセリンをレンズに塗ったサングラスをかけて、利き手ではない手でウサギの塗り絵を体験。実際にやってみて、子どもの気持ちになって、よく見ることの難しさや枠にはみ出ずに塗ることの難しさを実感することができた。普段の私の子どもへの声の掛け方を振り返ってみるとゾッとした。

「ウサギをよく見て」と言われても見えない。「はみ出ずに丁寧に塗って」と言われても思うように手が動かない。
粗大運動の機能（走る、歩く、ジャンプする等）と微細運動の機能（つまむ、持つ、結ぶ等）が順番に育っていくことや子どもの発達の段階を知っていれば、子どもの発達に合った声のかけ方ができるようになる。子どもの発達を理解することが、ワークショップを進行していく上で、子どもたちが私たちの見せ方や伝え方をどう受け取っているかを想像する力になることがよくわかった。

７月４日（２日目）

２日目、おとなに向けたワークショップの構成について学んだ。保護者や教員へ伝えたい内容をどのように組み立てて構成ができるかグループワークで考えた。ワークショップの目的と学び合うことへの目標を決める上で、まずは参加者が何に関心があり、何を知りたいと思っているかを考えて発信する必要性がある。参加者へ伝えたいことのゴールを決めて、そのことについて知りたいと思ってもらえるような工夫を仕掛けることで、参加者が主体となれることがわかった。では、ファシリテーターが参加者へ伝えたいことについて、参加者に興味を持ってもらうために何ができるのか。これから、自分だったらどんな構成ができるか、参加者してくれる人の視点に立って考えていきたい。

７月５日（３日目）

３日目、実際に劇の練習やトークタイムの練習を実施。小学生向けの養成講座の時のトークタイムの練習とは違った視点で子どもの発達段階の特性を理解して、子どもと向き合う必要性があると感じた。特に、非言語の子どもの訴えをどのように受け取り、聴き手はどのような言葉を選んで子どもに問うのか、おとなの問いやおとなの代弁が子どもの言おうとしていることの主旨から離れていかないように聴くためにはどうすればいいのか。トークタイムで子どものSOS をキャッチするために、子どもが何を言おうとしているのかを待つ姿勢が重要だと感じた。また、子どもの多様な発信に対応ができるように、トークタイムの研修を様々な事例を設定して練習したい。

最後に、この３日間、これまで訪問した様々な幼稚園や保育園で出会ったワークショップ中の子どもの様子を照らし合わせながら、「あの時こうすればよかったのか」と思い返す場面が多くあった。いつかまた、子どもの話を聴くときは、目の前の子どもが本当に言いたいことを話せるような聴き手になりたいと思う。

あいのっち

＊ローズカーニバルについて＊

１１月８日（日）に延期されていたローズカーニバルは中止になりました。
フリーマーケットに提供してくださった品物は、来年度までお預かりして活用させていただく予定です。
売上金および寄附金を利用して、できるだけ多くの子ども達へワークショップを届けます。

コロナ禍におけるワークショップ

～対策をしながら、今だからこそ届けたい～

こんな時だからこそ、つながりを失わず、子どもたちにワークショップを届けて、気持ちを話してもらったり、自分は大切なのだと感じてほしい。
コロナ感染予防対策に工夫しながら、ワークショップを実施しています。３密を避ける、劇で誰が話しているか、表情を分かりやすくする時には透明マスクを使い、子どもたちに近づく時には不織布マスクをつけるなど。
Zoom を使ってのリモート研修も実施しました。
出来る方法を見つけていきながら、活動しています。
開催したワークショップをいくつかご紹介します。

ワークショップ１　「らしくいきたい　大切にしたい　わたしの気持ち」
～シンママ、子ども、にじとも（LGBTQ）のためのアサーション～

こどもアサーションでは、未就学児には絵本を使いながら、就学児には感情の扱いのワークショップを実施しました。

子どもたちへ絵本を数冊準備しました。

① 「やさいのおなか」　きうち　かつ　さく・え　福音館書店

やさいの断面シルエットのクイズ「この野菜はなーんだ？」
低学年（３歳～小学２年生）チームで使いましたがつかみは本当に OK!な絵本です。
参加する子どもたちに時間差があり、複数回読みました。
一度見た子どもたちは、答えを知っていることで、自信を持ったようで後から参加した子どもに、自信満々でいい感じのタイミングで答えを教えていました。

② 「エンとケラとプン」　いわむらかずお　あかね書房

こころのなかの３つ生き物（きもち）のお話　気持ちのお話をする前に読んでみました。

③ 「７５億人のひみつをさがせ！」クリスティン・ローシフト 作
　　枇谷　玲子 訳　岩波書店

この絵本は高学年の子どもたちが、休憩時間に見ていました。
０人から７５億人ひとりひとりにある物語。ひとりひとりにあるひみつがある壮大な絵本。

他に準備した本
「気持ちの本」　森田ゆり　童話館出版
「いまじん　どうなる？どうする？」
　高氏雅昭・絵　桑原永江・文　本田恵子監修
梧桐書院

子どもと距離をとりながら…

（ぷーちゃん）

気持ちのことばをいっぱい出してくれました

ワークショップ２　こどもの里　夏休み子どもワークショップ三昧

夏休みを使って、恒例のこどもの里ワークショップ三昧の一日。
午前中は就学前 CAP プログラム、午後は SAY の会のプログラム（性の境界線）を実施しました。
今年は７月 24 日のスポーツの日で保育園がお休みだったこともあり、就学前 CAP プログラムには多くの子どもたちが参加してくれました。
ソーシャルディスタンスを保つため、床にテープで印を貼って、この印の所に座ってねとお願いすると、約束をしっかり守ってくれた子どもたち。
そして一生懸命に話を聞いて、考え、ロールプレイに出たり、楽しんで参加してくれました。
子どもたちの熱心さが伝わってきて、スタッフもいつも以上に熱量たっぷりにワークショップを展開しました。

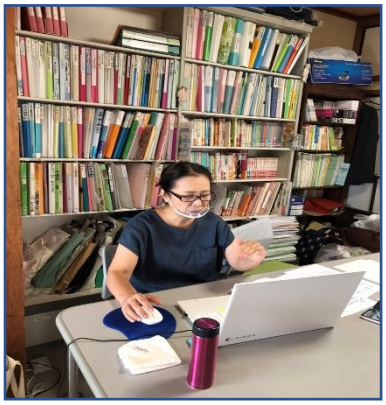
午後の SAY の会のプログラム「からだの境界線・こころの境界線」では、中学生以上の子どもたちとスマホやネットの扱いについても話すことができました。
座談会のような雰囲気の中でざっくばらんに子どもたちが話してくれるのがうれしかったです♪　（しおちゃん）

ワークショップ３

企業へのリモート研修(HR プロジェクト)

６月末、様々な研修が延期になっているなか、昨年 HR プロジェクトで依頼を受け実施した企業より、今年度は Zoom を使ってリモートでの研修ができないかとの打診があり、８月下旬９０分×２回の形で研修を行いました。

今まで長年研修を行っているとはいえ、殆んどがワークショップ形式のものであり、対面で参加者と意見のやり取りをしながら進めていくものでした。
しかし、コロナ禍で対面での研修が難しくなっている状況下、リモートという新しい形での研修の提案は有難いものであり、新しい一歩となりました。
ただ、初めての研修形態であるため、事前に Zoom を使って担当者との打ち合わせの他に、主催者側の当日参加スタッフと流れを確認しながらの念入りなリハーサルを行うなど、今までとは異なる準備が必要でした。
形式としては、主催者側がホストとなり、えんぱわめんと堺は共同ホストの形で入り、研修中の入退室の管理、操作は主催者側に担っていただきました。
リモートで研修を行う場合に懸念されるのが、一方的な研修になってしまうこと。私達が大切にしている、参加者の主体性を重視して進めることが難しいということです。そこで利用したのが、ブレイクアウトルームの機能を使って少人数のグループに分けて意見を交わしてもらう手法でした。９０分の中で３回のブレイクセッションをいれたのですが、短時間であったため、グループ内での話が盛り上がり、時間が足りないというグループもでるなど嬉しい声もきくことができました。また、反応機能（スタンプ）については操作に苦手な参加者も多いというので、白い紙にマジックで書いて画面に見せてもらうというアナログな手法もとりいれ進めました。



初めての新しい形の研修であり不安もありましたが、主催者側スタッフが Zoom 機能の操作に長けており操作切り替えもスムーズにすすみ、積極的に協力して頂けたので無事終えることができたと思います。

ワークショップ形式で対面で行うのが一番なのは当然ですが、様々な状況下で実施できる形を模索し伝えることの大切さも痛感した研修となりました。

（みほこ）

CAP プロジェクト活動報告　　２０２０年４月～２０２０年９月まで

	子どもワークショップ									おとなワークショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			回数（教職員）	人数（教職員）
	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数		
４月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
５月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
６月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1（1）	20（20）
７月	5	8	236	2	3	78	0	0	0	7（7）	18（18）
８月	10	24	708	0	0	0	0	0	0	10（10）	34（34）
９月	22	50	1433	0	0	0	0	0	0	22（22）	72（72）
合計	37	82	2377	2	3	78	0	0	0	40（40）	144（144）

ワークショップ開催　募集中（無料）

公益財団法人パブリックリソース財団より「J-Coin 基金」の助成金交付を受けました！！

コロナ禍においては、子どももおとなも生きづらさを感じることが多いです。
助成金を活用して、
障がい者福祉施設（放課後デイサービス・障がい児者サークルなど）において、
子ども向けとおとな向け（保護者・教職員・支援スタッフ）にワークショップを届けに行きます。（ワーク数に限りがあるので先着順・2021 年３月 31 日まで）
子どももおとなも、自分を大切に思えるようなワークショップを計画しています。
ワークショップ実施、開催をご希望される方や団体は、えんぱわめんと堺までお問い合わせください。

☆今だからこそ　みんなで考えよう　講演会☆今だからこそ　みんなで考えよう　講演会

今だからこそ　その１

時代に合わせたオンラインを活用した新しい取り組みなど、団体としてどんどん進化していくあっとすくーるから、今求められている支援の形を学びたい

ひとり親家庭がそれぞれに合わせた豊かな人生を送るために
～ひとり親家庭の子どもの学習支援の現場から見えること～

堺市男女共同参画推進講師派遣事業

講師：渡　剛さん（あっとすくーる代表）
日時：2020 年 12 月 20 日（日）14：00～16：00　　参加費：無料
場所：堺市産業振興センター（旧じばしん南大阪）会議室１　　定員：40 名
プロフィール：ご自身も未婚の母子家庭で育つ。自身の経験を基に同じ境遇の子どもたちを支えようと大学３年次にあっとすくーるを設立。子どもたちに「学び」と「つながり」を届ける学習支援を行っている。
公益法人あすのば評議員、ＮＰＯ法人 Brain　Humanity 理事も務める。

今だからこそ　その２

未来を作る子ども達を旧来の常識ではなく、2020 年世界のスタンダードで育みたい

日常生活の中に潜む‘自分らしさを阻むジェンダー’

地域における男女共同参画促進を支援するためのアドバイザー派遣事業

講師：上野　千鶴子さん（社会学者・東京大学名誉教授・
認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長）
日時：2021 年２月 13 日（土）14：00～16：30
場所：フェニーチェ堺　小ホール　　参加費：無料　　定員：１００名
プロフィール：専門は女性学、ジェンダー研究。この分野のパイオニアであり、高齢者の介護とケアも研究テーマとしている。
2019年、フィンランド共和国からHän Honours受賞（長年の男女平等への貢献に対する感謝状）2020年、「アメリカ芸術科学アカデミー会員」に選出される。
著書多数『女ぎらい　ニッポンのミソジニー』（朝日新聞出版・文庫）『上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください！』（大和書房）
最新刊に樋口恵子氏との共著『人生のやめどき』（マガジンハウス）がある。

☆今だからこそ　みんなで考えよう　講演会☆今だからこそ　みんなで考えよう☆

日本が子どもの権利条約に批准してから 26 年です「でも 20 代の親が、体罰容認ってなんでなん？宿題多いわって子どもが先生に言えないのは、なんでなん？」そんなこと、話してもらいたい！！

今だからこそ　その 3

子どもの権利条約日本批准から今と、SDGs
～子どもが安心できる社会をめざして～

社会福祉法人堺市社会福祉協議会「ふれあい助成金」により実施・堺市教育委員会後援

講師：平野裕二さん（子どもの人権連代表委員・ARC(Action for the Rigthts of Children)代表、子どもの権利条約ネットワーク運営委員、子どもの権利条約総合研究所運営委員など）
日時：2021 年３月６日（土）13：30～16：30
場所：堺市産業振興センター（旧じばしん南大阪）セミナー室４
資料代：500 円　　定員：50 名

平野さんの講演会の後、トークセッション『子どもの権利条約 26 年を振り返り今、教育現場、地域、家庭では』と子どもの権利すごろくの紹介も企画しています。

パネリスト：平野裕二さん
小山久子さん（大阪芸術大学特任教授・元堺市立小学校校長）
富田久子さん（お母さんのための応援団長・元堺市立小学校校長）
北野真由美（NPO 法人えんぱわめんと堺代表）

プロフィール：国連・子どもの権利委員会の報告審査を長く傍聴し、子どもの権利をめぐる国際的な動向に詳しい。主著（共著）に『子どもの権利条約のこれから』『新解説　子どもの権利条約』『子どもオンブズパーソン』、主訳書にユニセフ『世界子供白書』（2002 年版以降(財)日本ユニセフ協会との共訳）、『いじめに立ち向かう』『学校犯罪と非行少年』『少年司法における子どもの権利』など。

いずれの講演会もお申込み・お問い合わせはえんぱわめんと堺までお願いします。
コロナ禍で変更になる場合があることをご了承ください。

えんぱわめんと堺/ES の取り組みや講演や研修のお知らせなどを メールでも送らせて頂きます。

メールでの送信をご希望の方は、下記の QR コードにアクセスして、送信してください。ホームページのお問い合わせ画面につながります。その際、お名前・メールアドレスと、件名に（例）「研修など」・内容に（例）「案内希望します」とご記入ください。QR コードが読み取れない方は、empowerment@lily.ocn.ne.jp にメール送信してください。なお、迷惑メール対策で、ドメインまたはメールアドレスの受信・拒否を設定されている方は「empowerment@lily.ocn.ne.jp」からのメール受信を許可に設定してください。

えんぱわめんと堺/ES

えんぱわめんと堺/ES

会員募集～入会手続き～

正会員　　5,000 円
（初年度のみ入会金 3,000 円）
賛助会員　1,000 円（入会金なし）

◎ 更新日は年２回（１月 31 日・８月３１日）です。
◎ 会員有効期間は１年です。
◎ 郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名　特定非営利活動法人えんぱわめんと堺
口座番号　００９２０―９－１８２１１６

正会員	２６名
賛助会員	７２名（８３口）
寄附金	68,500 円

２０２０年９月現在

ＥＳの活動はみなさまからの寄付、ご支援にささえられております。今後ともよろしくお願いいたします。

持続化給付金（経済産業省）交付されました。家賃支援給付金（経済産業省）申請中です。

特定非営利活動法人えんぱわめんと堺／ＥＳ
〒599-８２４４　堺市中区上之８０１番５号
TEL：072-230-5588　FAX:072-230-5589
E-mail：empowerment@lily.ocn.ne.jp　http://www.npo-es.org/

ホームページや Facebook も見てね

編集後記　今年は、あっという間の一年間・・早く感じるのは私だけ？年が明けてからコロナ感染による情報がじわじわと押し寄せて、春の桜や新鮮な緑も充分に感じなかったような・・。夏休みも何をしていたのかな？マスクをして激暑だけが残っている。そして秋の気配はどうかな？紅葉や虫の音も短そうな・・そんな日々を送りながら一年ももう終わる・・SAME